

第1回マニフェスト大賞（地方議会）授賞式謝辞：審査委員会特別賞受賞

どうも本当にありがとうございました。

まったく想像もしなかった賞をいただき感動をしまして震えております。

そして又、講評の先生から身に余るお言葉をいただき、又、本当に私どもの議会が応募してよかったのか自問しておりました。

今の心境はと問われますと、北海道日本ハムファイターズヒルマン監督の「しんじられない！」と言ったそんな心境です。

小さな町の議会で、まずは二元代表制としての議会の役割は何なのか、議会の主役は議員であるとする自覚をもつという視点から、あるいは住民と情報を共有するという住民側の視点に立って改革を進めてまいりました。

気がついた事から、やれる事からを合言葉に、先進地の事例を参考にさせていただきながら、少しずつ少しずつ積み重ねてまいりました。

まだまだ道半ばでございます、北海道には、ニセコ町、中島興世さんが市長をしている恵庭市、そして、今日大賞を受賞しました栗山町といった大きな目標がございます。その目標に向かって少しずつまた歩みを続けて行きたいと思っております。

本心を申しますと私はこのたびの授賞式へ出るか出ないかノミネートされてからでも迷っておりました。高い旅費をかけてどうするんだと悩みもしました。そこで、アイデアとして、北海道福島の特産であるスルメのPRに出かけようということで参りました。無理を承知で事務局へお願いして、皆様の資料にスルメを入れていただきました。早速効果が出たのではないかとのおもいますが、そうではなくて、食べていただければ、福島のスルメは本当においしい事がわかっていただけれると思えます。

福島町は、ご存知のように、昭和の大横綱、千代の山・千代の富士と二人の横綱を小さな町から輩出しております。二人の横綱は、小さい頃から間違いなくスルメをかじっておりました、しっかりと顎を鍛え、体を鍛えて大横綱になりました。

しっかりと行政と対峙し、出された条例を簡単に納得するのではなく、歯を食いしばって、しっかりと議論するためにも福島のスルメを食べていただき、議会議員としてしっかりとがんばっていただきたいと思えます。この機会に福島のスルメをよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

北海道福島町議会議長 溝部幸基